

運動処方に関する研究

—ま と め—

岡 田 敏 夫

富山医科薬科大学小児科

運動処方に関する研究班は、初年度以下の点について検討を行った。

I) 小児腎疾患患児の運動負荷の影響について。

II) 運動負荷を規定する問題について。

I) : まず、各種腎疾患患児を組織学的所見より軽重の2群にわけて、各種の運動負荷を行い、尿蛋白排泄量、尿蛋白分析値、Ccr, FENa, などのパラメーターを用いて検討した。

その結果、増殖性病変の強い症例においては、蛋白排泄量が増加する傾向にあった。とくに重症群において午前から午後にかけて尿蛋白排泄量が増加する傾向がみられた。従って早朝尿より午後尿が組織学的重症度を判定するのに有用であった。

また、尿蛋白排泄量より安静度を決める際には、日内変動を十分に考慮しなければならないという結果を得た。

II) :

1日消費エネルギー測定法としてカロリーカウンター装着と行動調査表による設問法を行い得られた一日消費エネルギー値を比較検討した。その結果、設問法による算出法の平均は、 $1944 \pm 335 \text{ Kcal/日}$ であり、カロリーカウンターによる値 $1664 \pm 288 \text{ Kcal/日}$ の1.168倍であった。この補正式によりカロリーカウンターより簡便かつ正確に1日消費エネルギー値を測定することが可能であった。

また、カロリーカウンターによる腎疾患の運動量負荷の許容上限は、%BMRからみた場合130近くにあると思われるとの成績も報

告された。

III) : 今後の研究項目

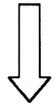
初年度の成績をふまえ以下の点につき研究を行う予定である。

1 : 小児期腎疾患患児についてその疾患別、病態別に運動負荷による影響、反応性をさらに検討する。

2 : 運動に対する反応性を検討するために従来用いられている項目(尿蛋白排泄値、尿蛋白分析値、FENa, Ccr など)以外にどのような検査項目を追加するかなどについて検討する。

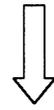
3 : 運動量を規定するために、カロリーカウンター装着と行動調査表による設問法を各班員が行いその統一的処理を行う。

以上、本年度の研究結果と次年度の研究項目について報告する。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



運動処方に関する研究

—まとめ—

岡田敏夫

富山医科薬科大学小児科

運動処方に関する研究班は、初年度以下の点について検討を行った。

)小児腎疾患患児の運動負荷の影響について。

)運動負荷を規定する問題について。

1):まず、各種腎疾患患児を組織学的所見より軽重の2群にわけて・各種の運動負荷を行い、尿蛋白排泄量、尿蛋白分析値、Ccr, FENa, などのパラメーターを用いて検討した。

その結果、増殖性病変の強い症例においては、蛋白排泄量が増加する傾向にあった。とくに重症群において午前から午後にかけて尿蛋白排泄量が増加する傾向がみられた。従って早朝尿より午後尿が組織学的重症度を判定するのに有用であった。

また・尿蛋白排泄量より安静度を定める際には、日内変動を十分に考慮しなければならないという結果を得た。

)1日消費エネルギー測定法としてカロリーカウンター装着と行動調査表による設問法を行い得られた一日消費エネルギー値を比較検討した。その結果、設問法による算出法の平均は、 1944 ± 335 Kcal/日であり、カロリーカウンターによる値 1664 ± 288 Kcal/日の1.168倍であった。この補正式によりカロリーカウンターより簡便かつ正確に1日消費エネルギー値を測定することが可能であった。

また、カロリーカウンターによる腎疾患の運動量負荷の許容上限は、%BMR からみた場合130近くにあると思われるとの成績も報告された。

)今後の研究項目

初年度の成績をふまえ以下の点につき研究を行う予定である。

1:小児期腎疾患患児についてその疾患別・病態別に運動負荷による影響、反応性をさらに検討する。

2:運動に対する反応性を検討するために従来用いられている項目(尿蛋白排泄値・尿蛋白分析値、FENa, Ccr など)以外にどのような検査項目を追加するかなどについて検討する。

3:運動量を規定するために、カロリーカウンター装着と行動調査表による設問法を各班員が行いその統一的処理を行う。

以上・本年度の研究結果と次年度の研究項目について報告する。